

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価 (3月18日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に他者と協働して取り組む活動のある授業づくりを実践し、学習習慣の定着を図る。 学校行事及び生徒会活動等を充実させ、生徒が主体的に取り組む姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①感染防止に努め、「学び直し」の場を確保する。基礎学力の定着と、コミュニケーション能力を伸ばし関心・意欲・態度を重視して生徒に達成感をもたせる。 ②コロナ禍でも実施可能な学校行事の形を工夫し、その活動を積極的に発信することで、生徒の自己肯定感を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①関心・意欲・態度を評価する際、コミュニケーション能力を伸ばす方法を工夫する。 ②生徒会の打ち合わせを密にし、工夫して行事を実施し、広報と連携し学校のHPに生徒会の項目を新たに設け、情報を発信できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①関心・意欲・態度を評価する際コミュニケーション能力を伸ばす方法を工夫したか。 ②コロナ禍で行事を実施し、広報と連携し、学校のHPに生徒会の項目を新たに設け、情報を発信できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒による授業評価で「授業中に身についたことや、できた」の項目で全学年とも達成感の割合が高かった。オンライン授業後の対面授業でコミュニケーション能力を伸ばす方法を工夫できた。 ②広報と連携し、学校のHPに生徒会の項目を設置し、ツイッターで活動を定期的に発信した。学校祭はコロナ禍で実施できなかったが、12月にプチ文化祭を実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①今後もICTを活用し、オンライン授業と対面授業でのどちらでも、関心・意欲・態度を評価し、コミュニケーション能力を高め、他者に配慮しつつ、自己発信力を高める授業展開を研究することが課題である。 ②今後は生徒会活動の中で、プチ文化祭で発揮したような生徒が主体的に行事に取り組む姿勢を育ていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用がうまくなされたようだ。オンラインと対面を合わせたハイブリットな授業の継続は学習面のサポートとして有効なのではないか。 生徒の授業に対する達成感の向上は授業に対する創意工夫の賜物である。 コミュニケーション能力については、「伝えたい内容がはっきりしている」ことが重要である。 生徒の創意工夫と主体的な活動によりプチ文化祭を実施できたことは評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①新型コロナウイルス感染予防としてのオンライン授業であったが、ICTを活用して、生徒と双方向授業ができるようになったことは、わかりやすい授業を行う上での成果である。対面授業再開後もスライド提示やインターネット利用の授業を実施できている。ユニバーサルデザインの一環としても生徒の「関心・意欲・態度」を引き出すためにICTは有効である。 課題としてはマスク着用やシールドのある生徒机の使用で、至近距離でのグループワークなどが感染予防の観点から活発にできなかったことである。また、時差通学や短縮授業で「思考・判断・表現」に繋げる深い学びへの時間が不足した。 ②広報と連携し生徒会活動の発信の場を充実することができた。今後は、プチ文化祭でみられた生徒の主体的な取組姿勢を育て、その具体的な取組を情報発信することで生徒の自己肯定感をさらに醸成することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①引き続きGoogle Classroomを使用して、生徒による授業評価などのアンケートや授業課題の提示と回収を含め、普段の授業でもICTを活用した授業展開を工夫する。同時に対面授業ならではの生徒間コミュニケーションの重要性を高めるよう授業ごとの目標や評価方法に発表を取り入れる。マスク着用でも自己アピールや他の生徒の発表を傾聴する姿勢を育み、「知識・技能」だけでなく「思考・判断・表現」を伸長する。 ②色々な生徒会行事の中で、生徒が主体的に考える場を設定し、生徒が創意工夫して行事に積極的に取り組む姿勢を育てる。
2 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 教職員間の共通理解のもと、生徒の規範意識の醸成を図るとともに、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握した支援を行う。 部活動の活性化を図り、生徒の自己肯定感を育みながら、部活動を通して責任感、コミュニケーション能力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の個別の事情に配慮しつつ、他者への思いやりの心を育て、規律と責任ある行動を実践できるように、社会の一員としての自覚を涵養させる。 ②コロナ禍でも実施可能な部活動と生徒会の地域連携の形を模索し、それに参加することで生徒の自己肯定感を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教育相談組織と連携し、「いじめ」の早期発見に尽力する。また、生徒、保護者に「いじめ」についての正しい理解を共有してもらう。SNSの適切な利用方法を理解させる。 ②大井町と密に連絡を取り合い、実施可能な連携活動を模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「いじめ」案件については未然に防止できたか。「SNSの不適切な使用」案件、年間10件以下となるよう指導・支援を行えたか。 ②コロナ禍でも連携した活動が、3件実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「いじめ」案件については発生しなかった。「SNSの不適切な使用」案件、年間14件発生した。 ②コロナ禍で予定していた大井町との連携は、清掃活動、あいさつ運動の2件しか実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「SNSの不適切な使用」については、リモート授業中のチャットへの不適切な書き込み、同じ生徒が複数回不適切な使用をするなど、新たな状況が発生している。リモート授業のルールの徹底。特別指導中の多方面からの指導を実行していく。 ②コロナ禍で外部との連携は実施しにくい状況が続くが、その中でも町との連絡を定期的に行い、今後の連携につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめが発生しなかったことは評価できる。SNSの使用から、いじめ・犯罪へとつながる可能性があるもので、使用のルールを徹底して指導していくことが必要と考える。青少年課の警察官による講演を視野に入れてはいかか。刑法により判断できるものは刑法の言葉を用いたほうが理解しやすいのではないか。 コロナ禍ではあるが、外部との連携の継続的な取り組みは評価できる。可能な限り、地元自治体と連携した活動やボランティア活動をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「いじめ」案件については、職員が日頃から声をかけることにより、生徒とのコミュニケーションがとれている指導の成果と考えられる。 ②コロナ禍で外部との連携は制限され、事業実施は難しかった。その中でも、町などの連携先との連絡は取り合っており、その状況に応じて実施できる事業を相談し、引き継いでいくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①SNSに関しては、特に新入生が不適切な使用をすることが多いため、学校説明会や合格者説明会も含め、入学後のSNS教室や学期毎の集会などで、引き続き機会があるごとに粘り強く指導していく。また、不適切な利用と危険性を指導するために、外部の識者の講演なども検討していく。 ②連携先との連絡を引き続き定期的に取り、担当が変わっても引き継ぎ、その状況に応じた対応ができる体制を構築する。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価(3月18日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で取り組むキャリア教育の充実を図り、生徒一人ひとりの社会性を養い進路実現を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度コロナ禍での進路支援経験を踏まえ、生徒自らが進路実現に向かう自主的な取組ができるよう、学校内外と連携し組織的な働きかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校内外と連携し進路実現に繋がる情報提供を充実させる。 就職では多数の1次応募に繋がる支援となるよう、学年団・SCC・SC・SSW等との連携を密にし、個別支援を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でも生徒の主体的な学びや取組を促す情報をより早期に提供できたか。 特に就職では学校幹旋全員内定に向けた支援ができたか。またリモート面接についての対応ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 各方面と連携し、進路ガイダンスの実施、オープンキャンパスへの参加、会社見学等を通して、主体的な学びを深められた。 リモートでの進学、就職説明会については、学年団と協力し円滑に実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職の求人票の掲示に加え、進学関係のポスターを全生徒が閲覧できる場所に掲示していくなど工夫する。 就職希望者の1次応募での就職内定率を向上させ、全員内定に向けた活発な就職支援を計画的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題や改善案については、教職員の日常的な取り組みから見えてくるものであり、教職員の細やかな熱意が感じられる。 企業においてリモート面接・研修・会議が主流になってきているところも多い。就職活動においては、リモートでのコミュニケーションの練習が必要になってくると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の9割が自分の希望する進路実現がなかった。校内外と連携し、生徒の進路活動につなげることができた。 進学・就職の面接は対面に加えリモート対応もあり、昨年度の経験を活かした面接指導が生徒の進路実現に役立った。進路希望の達成に向けて、早期からの進路に対する意識を高めることが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒が上級学校、企業のポスター、求人票を閲覧できるような掲示を工夫し、早い段階からの進路データブックを通じてのきめ細かな情報の提供を行っていく。 リモートによる面接の指導にも力を入れた。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域と学校間の連携・協働を充実し、信頼される学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域、中学生、保護者に対して情報発信を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 公式ツイッターの継続を検討し、HPの生徒活動内容を増やすなど中学生に伝わりやすいよう工夫する。 昨年度の学校説明会実施に関わる内容を引継ぎ、運営方法や本校職員の配置を工夫する。 信頼関係を築き、協力を得られるよう学校行事への積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> HPの更新回数を増やし、生徒の様子を伝える広報活動ができたか。 感染対策に努めながら、学校説明会を円滑に実施し、中学生や保護者の本校への理解は進んだか。 保護者の積極的な関わりが参加率から見られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> HPに「生徒の活動」「大井高校生徒会」のページを作り、情報発信を行った。 学校説明会は、感染対策に努めながら、円滑に実施できた。アンケート結果では、参加者のほぼ全員が内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> HPの情報量が多いと伝わりやすくなるため、公式ツイッターとHPを使い分けて情報発信することが効果的だと考えられる。今後は、ツイッターとHPを使い分けて情報発信を行っていききたい。 学校説明会の申し込みをHPで行ったが、それ以外でHPを効果的に使うことができていなかった。HPによる学校説明会の情報発信を工夫していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 適正に情報発信を行い、課題も的確にとらえている。取り組みの結果、効果的な活用方法も得られ、次年度に向けての活動に期待が持てる。 学校のHPに生徒会ツイッターの設置は良いと思う。公式なSNSの発信により、リテラシーを向上する機会を得られると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策をふまえながら、学校説明会を円滑に実施することができた。しかし、説明会の宣伝や連絡手段としてHPを効果的に使うことができなかった。 HPの更新回数を増やし、HPの生徒活動内容を増やすことができたが、情報量が多くなるにつれて複雑になり、必要な情報が伝わりにくくなることもあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会の申し込みだけでなく、宣伝や連絡手段としてもHPを効果的に使っていく。 今後は、HPの情報量を増やすだけでなく、伝わりやすいようにHPの内容や構成を工夫し、公式ツイッターも使い分けて情報発信していく。またリテラシーの向上を図る。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な学校づくりに努め、事故・不祥事の未然防止に対する自覚を促す取組を組織的・継続的に行う。 教員が心のゆとりをもって生徒と向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①安全・安心な学校づくりに努め、事故・不祥事を未然に防ぐ意識を常に促し、意識啓発に組織的・継続的に取り組む。 ②長時間勤務を是正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①グループが主体となる事故・不祥事防止会議を行い、職員の意識の向上を図り、事故不祥事ゼロをめざす。特に成績処理の点検作業、個人情報管理の管理を確実に行う。また、防災訓練や交通安全教室を通して生徒の防災や交通安全に対する意識を高める。 ②月1回のノー残業デーを設定し、月間行事予定に明示するとともに積極的に職員に声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①事故・不祥事防止会議等により、事故不祥事ゼロを実現できたか。成績処理、個人情報管理が適正になされたか。生徒がDIG訓練、交通安全教室に参加することで意識の向上が見られたか。 ②ノー残業デーを何回実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①事故・不祥事防止会議は月に1度実施され、職員の意識の向上に役立ち事故不祥事はゼロであった。年2回の防災訓練を通して生徒・職員の防災意識が向上した。DIG訓練の振り返りシートからも意識の向上がうかがえた。 ②月1回のノー残業デーを設けた。職員の時間外勤務の時間数を把握し改善に向けた声掛けをした。 	<ul style="list-style-type: none"> ①今後も事故・不祥事防止会議の内容を精選し、事故防止への取り組みを強化していきたい。今後もDIG研修や防災訓練の内容を、感染対策を踏まえた実践的なものにし、充実したものにする。 ②休日出勤等勤務時間外労働の状態を把握し、産業医による面談につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の意識向上により、事故不祥事が起こらなかったことは何よりである。日常での継続的な取り組みが、丁寧に粛々と全学で取り組まれていることが素晴らしい。 教員のノー残業デーは引き続き実施してほしいが、月2回のノー残業デーの実施に向けて努力してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①事故・不祥事防止会議の開催によって職員の意識の向上に効果があった。さらなる工夫を加えて継続していく。今後もDIG研修や防災訓練の内容を、感染対策を踏まえた実践的なものにし、充実したものにしていく。 ②月1回のノー残業デーが定着できるよう、職員の時間外勤務の時間数を把握し改善に向けた声掛けをした。日々の仕事量の緩急はあるものの残業する職員が固定化しないように、時間外勤務の把握を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①事故・不祥事防止会議の内容の充実を図り意識啓発に取り組む。さらに、新たなテーマの掘り起こしをする。 ②業務の進行状況を複数の職員で確認しあい、声かけを行うことにより、時間外勤務にならないよう、職員が互いに時間を意識するようにする。